

学校概要

[名称] 開智学園総合部（開智小学校） [創立] 2004年4月
[児童生徒数（2024年度）] 821名（男418名・女403名）
[教職員数（2024年度）] 71名（男42名・女29名）

〒339-0004 さいたま市岩槻区徳力186
Tel: 048-793-0080 / Fax: 048-793-0081（プライマリー）
Tel: 048-793-3822 / Fax: 048-794-4720（セカンダリー）
E-mail: sougoubu@s.kaichigakuen.ed.jp

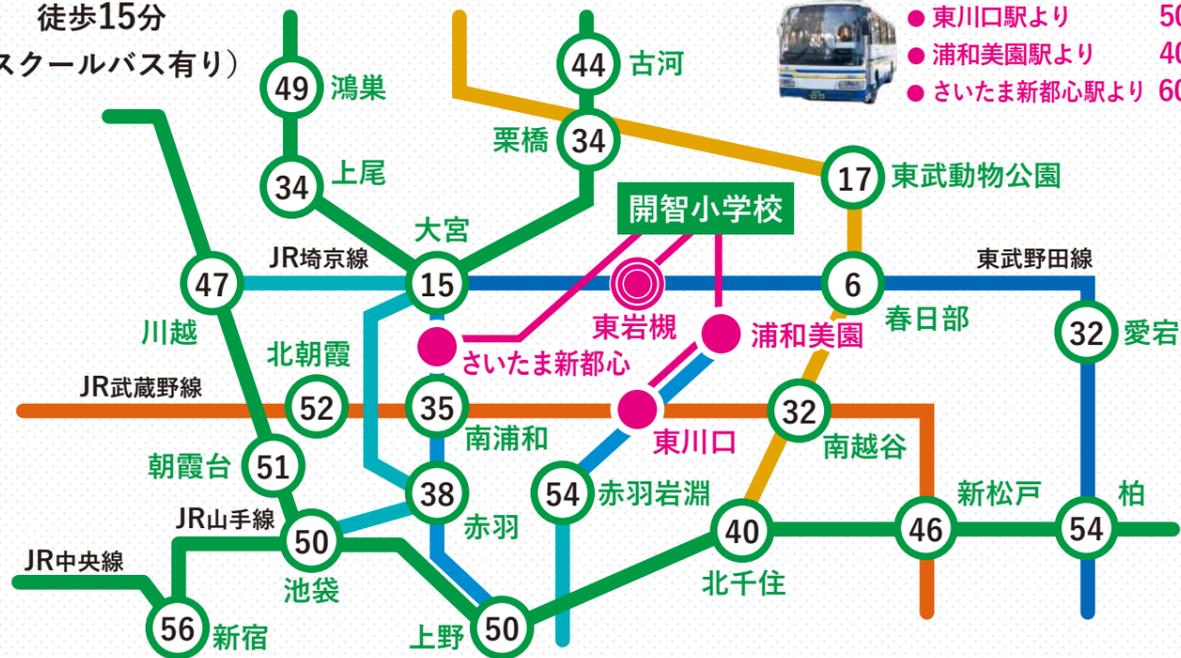


ホームページ

交通・アクセス

東武野田線東岩槻駅

徒歩15分
(スクールバス有り)



東岩槻駅の改札を出ましたら、左(北側)へお越しください。駅ロータリーに学園までの地図がございます。

開智学園グループ

- 開智小学校(総合部)
- 開智望小学校・中等教育学校
- 開智中学・高等学校(一貫部)
- 開智日本橋学園中学・高等学校
- 開智高等学校(高等部)
- 開智国際大学
- 開智高等学校 通信制課程
- 開智国際日本語学校
- 開智未来中学・高等学校
- 開智所沢小学校・中等教育学校

探究・異学年齢学級・12年一貫教育で、おもいっきり遊び、じっくり学ぶ



開智小学校

Kaichi Comprehensive School

国際社会に貢献する、心豊かな、
創造力・発信力をもったリーダーを育てます。

教育方針

国際社会に貢献できる リーダーを育てるために

自分の得意をいかした専門的な分野での知識や能力を高め、スペシャリストとして社会貢献できる人材を育てるために、質の高い基礎の学びを徹底します。また社会貢献することに喜びを感じる感性を身に付けるために、様々な自然・社会体験活動を計画的に行います。

心豊かなリーダーを育てるために

学びを通して人の心は豊かになり、心が豊かになることでより深い学びができます。子どもたちが自ら主体的に「学び合う」楽しい授業を通して、豊かな心を育てます。また異学年齢学級でのさまざまな交遊を通して、人の心に共感できる優しく強い心を培います。

創造力・発信力をもった リーダーを育てるために

授業を通して、「なぜ」を考え、思考力を育て、自分の考えや意見を発表することで発信力を育てます。また授業以外にも、様々な体験学習の場で、児童生徒自身が中心となって「考え」、「企画し」、「話し合い」、「実行・実現する」という経験を通して、創造力・主体性を育てます。

教育目標

得意を伸ばす

それぞれの違いを知り、他者を認め、自分自身の得意分野や独自性を見つけ、伸ばすこと。

志を高く学ぶ

自分自身の人生での「目標」(=「成功」「幸せ」)を見つけ、それに向かって努力実践すること。

人のために学び、行動する

その「成功」「幸せ」が社会に対して意義のあるものでなければならないことを認識し、行動すること。

もくじ

p02	開智の理念	p17 - 18	「体験」から学ぶ
p03	12年一貫教育	p19 - 20	自ら創る「行事」
p04	異学年齢学級	p23	1日の生活
p07 - 08	教育の6重点	p24	年間行事
p09 - 10	探究	p25 - 26	アフタースクール
p11 - 12	実践的な英語力	p27	施設紹介
p13	教科学習の特色	p28	進学実績
p14	ICT教育	p29	卒業生の声
		p30	保護者アンケート

発達段階に応じた

12年一貫教育

開智学園総合部の4-4-4制は、子どもたちの年齢・発達段階にあわせた最適な教育を実現します。

小学校入学から大学進学までの12年間を、子どもが大きく変化する傾向のある、小学4年生～5年生、中学2年生～3年生の時期で区切ることで、成長段階に見合った教育を行うことができます。開智の4-4-4制ではそれぞれの時期に最適な学習を行うためのプログラムを構成しています。



一般的な6-3-3制教育

小学校						中学校			高等学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年

プライマリー					セカンダリー			ターシャリー(中高一貫部に合流)			
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年

[総合部生と中高一貫部生は中3から合流します]

開智学園総合部の4-4-4制12年一貫教育

プライマリー(小1～小4)

「体験から学ぶ」～生活型・能力開発型～

物事に対する好奇心や学習意欲を育てることを重視します。生活に密着した様々な体験や遊びを通して学習を進めると共に、今後の学習の基礎となる「読み・書き・計算」を徹底します。



1st 2nd 3rd 4th

セカンダリー(小5～中2)

「幅広く学ぶ」～探究型・知識習得型～

一生のうちで一番記憶力の良いこの時期に幅広い知識・教養を身につけ、その知識をもとに、「思考」「推論」「表現」する力を、探究的な学びを通して培っていきます。



5th 6th 7th 8th

ターシャリー(中3～高3)

「深く学ぶ」～専門型・大学進学～

アイデンティティーの確立するこの時期に、自分の進みたい方向に向かってより専門的に学問を深めます。高2までに高校課程を修了し、高3時は大学進学に向けた学習を徹底して行います。



9th 10th 11th 12th

組織を学び、リーダーを育てる

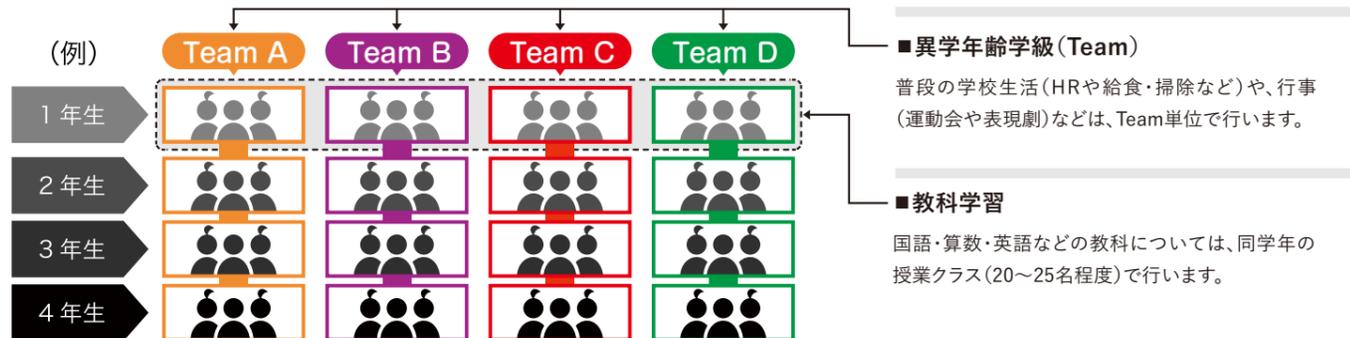
異学年齢学級

幅広い人間関係を通して、将来社会で活躍できる心豊かなリーダーを育てます。

「プライマリー」と「セカンダリー」では、それぞれ4つの学年で編成された異学年齢学級(=Team)で学校生活をおくります。「プライマリー」では、1年生～4年生まで各学年の児童を10名ずつ編成して40名程度の学級を作ります。(国・算・社・理・英語など、主要教科の授業は同学年で行います。)



(例)



異学年齢学級(Team)で行われる授業

同級生というヨコの関係と、異学年齢のチームメイトというタテの関係を通して、他者への思いやりとリーダーシップを身につけます。1年生は上級生に学び、憧れ、2～3年生は上級生としての自覚を持ち、4年生は最上級生という責任ある立場でチームを束ね、下級生を引っ張っていく経験を通して、リーダーシップを育みます。少子化・核家族化が進み、人間関係を学ぶ機会が少なくなった現代社会において、子どもたちが自然に「組織」を学び、社会での「人間関係構築力」を高め、これからの国際社会に貢献する「リーダー・スペシャリスト」を育てる絶好の環境です。



Teamは「担任2名制」

プライマリーでは約40名のチームに対して、チーム担任が2人つき、日々の生活や学習面でのサポートはもちろんのこと、異学年齢で行う「Team探究」「表現」「パーソナル」などの授業を行います。

表現・道徳



開智発表会では、Team毎に脚本や演出を考え、一つの劇を創りあげます。

Team探究



Team毎に「探究テーマ」を設定し、総合的な学習を行います。

行事



「運動会」や「球技大会」ではTeam対抗で優勝を目指して競います。

学びの特徴

主体的・対話的で深い学びの実現にむけて

すべての学習のベースは、「なんだろう」という好奇心や「知りたい」「学びたい」という意欲です。開智では様々な体験学習や行事を通して、子どもたちの主体性を育みます。

自ら学ぶ、共に学ぶ

将来、国際社会に貢献するリーダーを育成するために、一方向型の講義型授業だけではなく、仲間と共に「学び合う」授業を通して、協調性やコミュニケーション能力を高めます。また開校当初から取り組んでいる「探究」では、各自が自身の興味関心をもとに「探究テーマ」を設定し、「疑問→仮説→検証→振り返り」というサイクルを通して、「自ら学ぶ力」を育みます。

脳の機能を高める

主体的・対話的で深い学びを実現するために必須となるのが、基礎的な学力です。読み書き計算の学習を習慣化し、徹底して反復することで、将来の学びの基礎を作ります。

保護者の声

子供達がのびのびと楽しみながらたくさんの方の事を学んでいる姿が親としてとても嬉しいです。

異学年の環境で、教えたり教えてもらったりを通して、探究心やコミュニケーション能力など非認知型能力が高められる学校です。

授業や探究プレゼンテーションなど、様々な場面で学びをアウトプットする機会が多く、表現力や度胸が身に付いたと感じます。

先生方は正解にとらわれず、自由な発想や過程を大切にされる授業をされており、日々の子どもとの会話の中で創造力と発信力が成長していると感じております。



主体的に学ぶ力を育てる

教育の6重点

12年でじっくり学ぶ、開智教育の6重点とその狙い

開智では様々な「体験」を通して、学びの原点である「好奇心」を育み、主体的に学ぶための基盤を作ります。そして、「朝の読書」や「昼の学習（計算）」では、思考のベースとなる「脳の機能」を高めます。さらに「探究型の学び」を通して「自ら学ぶ力」「コミュニケーション能力」を高め、社会に出てからも通用する思考力・表現力を育てています。



重点・その 1

「好奇心」「意欲」を育てる

[自由な発想で学ぶ体験学習]



全ての学習のスタートは、「知りたい」「やってみよう」という好奇心・意欲です。開智では様々な「体験」を通して、子どもたちの知的好奇心を刺激します。

重点・その 2

脳の機能を高める

[朝の読書・昼の学習]



「読み・書き・計算」は、今後の学習の基盤となるものです。朝と昼の学習を通して、基礎学力を高め、日々の学びへのスイッチを入れます。

重点・その 3

思考・推論の仕方を学ぶ

[なぜを考える探究テーマ学習]



授業では、常に「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切に、それを解決していく「探究型の学び」を多く取り入れ、子どもたちの思考力を育てます。



重点・その 4

コミュニケーション能力を伸ばす

[傾聴し、主張し、調整する能力を高める場]



異学年齢で構成されるTeamは、多様な人間関係の中でコミュニケーション力を高める最良の環境です。またプレゼンテーションの場も多く、発信力を高めます。

重点・その 5

学び方、自学自習の方法を身につける

[「パーソナル」の時間]



「パーソナル」「探究」の時間では、自ら何を学ぶか、どう学ぶかを決定します。生涯にわたって必要となる「自ら学ぶ力」を育てます。

重点・その 6

自分を客観的に見極める力を養成する

[自己評価による振り返り]



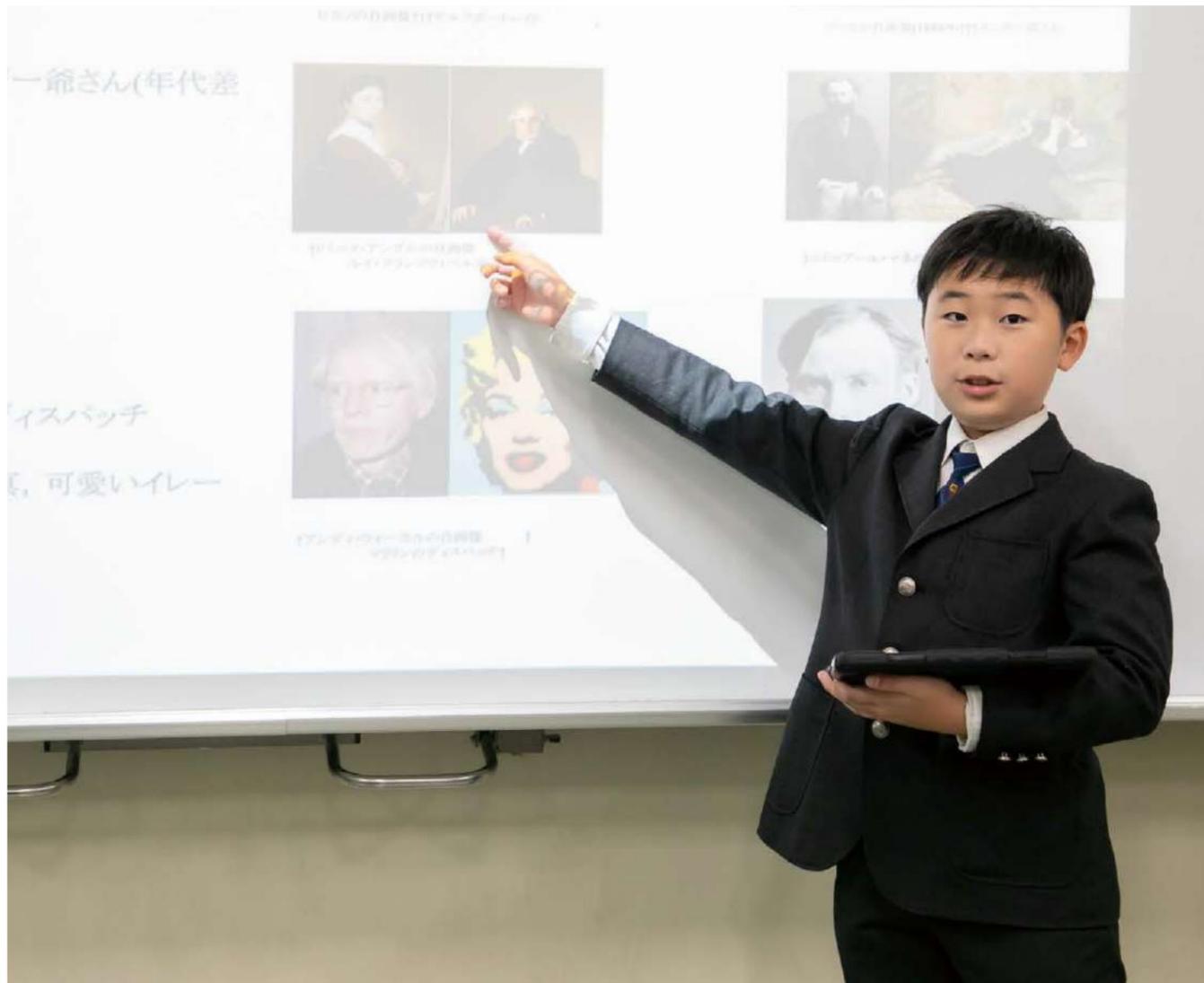
学期末のテストや行事の後には必ず「振り返り」を行い、自らの考えや行動を客観的に見極める力(メタ認知)を鍛えます。

主体的に学ぶ力を育てる

探究

自らの興味関心をベースに「探究テーマ」を設定し、
疑問→仮説→検証→発表のサイクルで、
主体的に学ぶ力を育てます。

開智では開校当初より「探究」をカリキュラムの中核に据え、子どもたちの学習意欲や好奇心を高め、
思考力・表現力を育てています。また、一方向型の講義型授業だけでなく、子どもたちが能動的に
学び合う「探究型の授業」を多く取り入れています。



1 興味関心・好奇心を育む

興味関心を授業にする —— パーソナル

プライマリーでは、学ぶ内容や方法を自分で計画し、実践する「パーソナル」という授業を行っています。自らの手で「学び方を学ぶ」授業です。



情報を整理し、発信する —— プレゼンテーション

1年生の時から、自分が探究した内容をチームのみんなの前で発表する「探究プレゼンテーション」が行われ、当日は多くの質問が寄せられます。



2 疑問を持つ・仮説をたてる

テーマを深く掘り下げる —— 探究

セカンダリーの「探究」の授業では、各自が自分の探究テーマを設定し、一年間を通して深く学びます。年度の最後にはプレゼンテーションを行います。



自分の手と足で確かめる —— フィールドワーク

1年生～8年生まで、毎年フィールドとテーマを変えて「探究フィールドワーク（宿泊学習）」に出かけます。8年生は、自らテーマと行き先を決めて、大学教授や専門家を訪ね、探究の学びを深めます。



4 振り返る・発表する

探究プレゼンテーション

プライマリーでは夏休みの課題として各自で「探究」に取り組みます。小学生らしいユニークな視点から独自のテーマを設定し、9月に「探究発表会」を行います。



【検証1の方法】
①まず10種類の物を準備する。
・アリの餌 ・チーズ
・ダンゴムシ ・バナナ
・指 ・チョコレート
・トマト ・納豆
・ビーズ ・白米
②準備した10種類をハエトリ草にあたえて、食べる(葉が閉じる)かどうかをためてみた。



「ハエトリ草って、ハエしか食べないの？」

家で育てている「ハエトリ草」は、本当に「ハエしか食べないのか？」という疑問から、10種類の生き物や食べ物を食べさせて、2週間観察を続けました。するとハエトリ草の様々ななぞが明らかになりました。

3 調べる・検証する

8年生探究フィールドワーク

8年生は、各自が設定した「探究テーマ」に基づいて、自分自身で行き先を決め、アポイントを取り、探究フィールドワークの旅に出かけます。総合部で行ってきた探究活動の集大成です。



探究テーマ例

- ・なぜ北海道にたくさんの人が移住してくるのか。
- ・アイヌの人々と道民はどのように共存してきたのか。
- ・札幌が北海道の中心に選ばれたのはなぜか。
- ・ゲノム医療によるがんの治療 など

身体性をともなう英語授業
実践的な英語力

1年生から週5回の英語による授業を行い、
英語を通して思考力・表現力を身につけます。



プライマリーでは、1年生から週5回の英語授業を行い、ネイティブ教員が中心となって、「話す」「聞く」のコミュニケーションを中心に英語に親しみます。セカンダリーに進級した後は、文法や読解などの授業も行い、英語の4技能スキルをバランス良く身につけ、英語を活用できる人材を育てます。



英語科の授業詳細

	プライマリー	セカンダリー
ひとグループあたりの児童・生徒数	20人程度 (グループ別)	20人程度 (グループ別)
週あたり時間数	45分×5回	45分×6回
時間割構成	<ul style="list-style-type: none"> ● English…週3回 ● English Art…週1回 ● English Music…週1回 	<ul style="list-style-type: none"> ● TEXTBOOK CLASS…週4回 ● READING COMPREHENSION CLASS…週2回

ネイティブ教員による充実の英語教育

総合部には、様々な国籍やバックグラウンドを持ち、熱意溢れるネイティブ教員が、日々の英語の授業やカリキュラムを作っています。また、帰国生や特に英語力の高い児童生徒を対象に、放課後の「取り出し授業」を行い、より発展的な英語コミュニケーション能力の向上を図っています。



MusicやArtは、ネイティブ教員と図工や音楽の専科教員の2名で行い、英語の指示で授業を進めます。



体を動かしながら英語を身につける
Music / Art

プライマリーでは、工作をしたり歌を歌ったりしながら英語に触れる「Music」「Art」という時間があります。脳のいろいろな部分を刺激しながら、自然に英語に触れ、体全体で英語を身につける授業です。欧米の小学校で教えられている工作や歌を習うことで、「言語」だけではなく「文化」にも触れることができます。



表現力・発信力を高める
スピーチコンテスト / Spelling-Bee

セカンダリーでは、英語での表現力・発信力を高めることを目的とした「スピーチコンテスト」を行います。レシテーション部門とオリジナル部門にわかれてスピーチ力を競い合います。
プライマリーでは、「Spelling-Bee Kaichi」を行っています。これは英語圏でも行われている英単語力を競い合うコンテストです。発信力の基盤となる英単語力を低学年のうちから高めます。



海外ホームステイ

希望者を対象に、夏休み期間を利用して、オーストラリアへ海外研修旅行に出かけます。オーストラリア（シドニー近郊）の現地校で地元の子どもたちと一緒に授業を受けたり、ホームステイを行います。
英語を使ったコミュニケーション力を高めると同時に、国際社会に貢献するリーダーとして必要とされる国際感覚や異文化への理解を深めます。

教科学習の特色

思考力・発信力を育てる

「探究型授業」

教科の授業は学年毎に少人数で行います。

一方的な講義型の授業による知識の獲得だけでなく、互いに学び合う活動を通して、思考力や発信力を高めています。

教科を超え、教養を育てる

国語

教養を深め、思考力を鍛える「ディベート」



国語科はあらゆる思考のもととなる言語能力を高めるといって、わけて重要な役割を担います。開智では、幅広い教養の獲得とコミュニケーション能力の獲得に重点を置き、他教科とも関連させた様々な取り組みを行っています。

「豊富な語彙力」「論理的思考力」「確かな表現能力」といった『学びのツール』を獲得するために、国語科は非常に重要な役割を課せられています。開智では、豊富な読書量をベースに、言語能力を高め、幅広い教養を獲得できるよう、他教科と関連させながら、様々な活動に取り組んでいます。

例えば、セカンダリーでは、「小論文」の作成があります。少子高齢化や環境問題など、学期ごとにテーマを決め、年間を通して情報収集や執筆活動を行います。社会全体にアンテナを張って情報を収集し、自身の考えを自らの言葉で論理的に発信する能力を高めます。

また幅広い教養の一つとして、古典学習にも力を入れています。プライマリーのうちから百人一首の暗唱を行うなど、自国の文化への理解を深めています。

『考える力=自らつくり出す力』を育てる

算数学

「考える力」をつける学び合い活動



開智の算数学では、問いに対する答えだけではなく、様々な解法を考えてみたり、自らの手でできまりを見つける活動を多く取り入れています。実際の生活と密着させ、「見る・触る・作る」といった活動とも結びつけながら、「考える力」を身につけます。

開智の算数学は、子どもたちの「考える力」を育てます。ここで言う「考える力」とは、何か答えや解法を「思い出す力」ではなく「自らつくり出す力」です。算数学の問題は、正答が決まっているクイズではなく、自分たちで試行錯誤を繰り返し、方法やきまりを見つけ出し、いくものだと考えています。例えば、ある問題にたいしていろいろな方法で解いてみることを積極的に行っています。子どもたちはお互いに自分の考えを発表しあうことで、新しい発見をし、考えることの楽しさを学んでいくのです。

また、そのような学習を充実させるためには、基本的な計算能力も必要です。「昼の学習」では、毎日10分間集中して基礎的な計算問題に取り組めます。定期的で開催される「昼の学習選手権」を通して、お互いに切磋琢磨しながら、計算力を高めています。

一次情報の獲得から思考・検証へ

理科

一次情報獲得のための「実験・体験」



開智の理科では、「観る・触る・感じる」といった『一次情報』の獲得を重要なものと考えています。これを基に様々な思考を行い、さらには自主的な検証へと学習を発展させます。この流れが、中学校、高等学校、そして大学でも必要になる「理科の学び」だからです。

開智の理科では、「一次情報の獲得」を中心に授業を展開していきます。「一次情報」とは、結晶を自分の目で観察したり、カイコを自分の指で触ったりといった、私たちの五感を用いて直接得る情報のことです。開智の理科の授業では、様々な実験や体験を通して、自分自身の手足、目や耳を使って「学び」を実践します。

たとえば「中和滴定」の実験。6年生になり、基礎知識を学んだ上で行う本格的な実験では、「酸性の水溶液にアルカリ性の水溶液を混ぜて中性にするだけなのに、一滴の違いで変化が起こるよ」と説明すると、緊張しながらも真剣に実験に取り組めます。とても面白い一次情報の獲得と、思考・検証の連続です。直接得た一次情報の獲得から、思考と検証を繰り返し行うことで、子どもたちの学びが深まります。その成果は今すぐに確認できるものとは限りませんが、児童生徒の「生きる力」に直結する活動だと考えています。

世の中と積極的に出合っていく

社会

社会へのアンテナを高める「リサーチブック」



開智の社会科では、プライマリーでは身近な世の中の仕組みについて、セカンダリーでは地理・歴史・現代社会の様々な事象に対して、積極的に疑問・興味を持つことから始め、そこからの気づきを大切に、考えを深めています。

3年生から始まる社会科では、身近な社会に目を向け、そこから視点を外側へ広げていくことを大切にしています。教科書の内容だけではなく、時事ニュースも積極的に授業に取り入れ、世の中のこと積極的に目を向け、考える時間を作っています。

学年が上がっていくにつれて、子どもたちの視点や行動範囲が広がり、様々な事柄を自ら発見する機会や疑問に思うことが増えていきます。その疑問を大きな学びのタイミングととらえ、発見(!)や疑問(?)を書いてまとめる「リサーチブック」を一人一冊作成する取り組みを行っています。一人ひとりが興味関心を持ったことや疑問に思ったことをテーマに、「?(なぜ)」と「!(おもろい)」を必ず自分の考えやコメント付きでまとめるようにしています。そして、教員もリサーチブックにコメントを返し、好奇心や意欲を高めながら取り組みをサポートしています。

ICT教育

「探究型の学び」をより効果的に実践するために、進化するICT機器を積極的に活用しています。

1年生から1人1台タブレット端末(iPad)を所有し、ドリル学習、学び合い、プレゼンテーションなど、様々な場面で活用しています。校外学習や家庭学習など様々な場面でICTを活用することで、本校が目指す探究型の学びを効果的に実現することができます。



クラス全員の思考を瞬時に「見える化」することで、子どもたちの思考が刺激され、授業の議論が活性化されます。

「文房具」としての活用 1年生から1人1台のiPad

在校生・教職員全員がiPadを所有し、すべての教室にプロジェクターを設置することで、どの授業でもICTを活用した授業を行うことが可能です。



【基礎学力定着】
各自のレベルに合わせたドリル学習



【探究学習支援】
「学び合い」の促進とプレゼンテーション力の育成



【情報共有】
教員・児童生徒・保護者間での学習内容の共有

思考力・表現力を高める 各種アプリケーションを使った学習

1人1台のiPad所有に加えて、様々なアプリケーションやソフトウェアを活用し、開智が目指す「探究型の学び」を効果的に実現します。

オンライン学習への取り組み

コロナウィルス感染拡大による「緊急事態宣言」が発令された際は、子どもたちの「学び」を継続させるべく、オンライン会議システム「zoom」を活用して、リアルタイムで双方向型の授業を全学年で行いました。

朝の会ではみんなが顔を合わせ、先生と一緒に時間割に沿って学ぶことで、規則正しい生活を維持し、コロナ禍においても、先生や友達と安心して学べる環境を整えることができました。

児童生徒



コロナ対応入学を祝う会

学習支援ツール



学校



1人1台iPadを所有し、各種学習支援アプリ等を活用することで、自宅にいながら、通常の授業とほぼ同じように学習活動に取り組むことができました。

保護者の声

「素早くオンライン授業を開始していただけて、とても助かった。授業の内容も充実していて、安心して過ごせました。」

「学校の対応がメールで頻りに通知されて、状況がよくわかりました。」

「普段見れない授業もzoomと一緒に見ることができ、普段の授業も楽しく受けているのだからというのが実感できました。」

「学校に行かなくても先生から直接zoomやiPadを通してメッセージを受け取れるので、子どもが勉強するときのモチベーション維持にとっても役立ったと思います。」

「環境が整わない家庭にはiPadを貸し出してくれたり、授業再開後も様々なことを気遣い工夫していただいているのがわかります。」

「1年生になった実感がないうままスタートしたオンライン授業でしたが、学校探検のスライドやチームの4年生の自己紹介が届いたり、学校の一員であることを実感できました。」

体験と行事

体験から学ぶ

子どもは、「体験」を通して、発見し、疑問を持ち、学ぶ楽しさを知ります。

開智では1年生から自然を探究する宿泊学習に出かけるなど、たくさんの「体験」を用意しています。教室を飛び出し、海や山などの自然に触れ、様々な場所や人に出会い、たくさんの「本物」を体験することで、好奇心や探究心を高めます。開智が開校当初から取り組んでいる「フィールドワーク」では、学年ごとにテーマを設定し、探究の手法を学びます。宿泊を伴う集団生活を通して、人間関係を学ぶことはもちろん、たくさんの課外活動の中で、自然への感動や驚きから、学ぶ喜びを知っていきます。

自らの手で創り上げる行事

開智では、運動会や開智発表会などの大きな行事を、子どもたちの手で企画・運営します。行事ごとに実行委員を結成し、行事を創り上げていく活動を通して、責任感や協調性、自主性やリーダーシップを育てていくのです。

異学年齢学級（Team）をベースに行われるこれらの行事では、上級生のリーダーシップが不可欠です。運動会での応援合戦や、開智発表会で上演する劇など、Team一丸となって目標に向かって努力することを通して、Teamの絆を深めていきます。

保護者の声

様々な行事を通して、その年代に合った役割を体験出来ることに魅力を感じます。

子どもが自ら考え運営する運動会は圧巻です。

運動会や開智発表会で異学年の子達と力を合わせて活動するたびに心が豊かに成長していると感じます。

毎年の探究テーマに、子ども自身が夢中になり、楽しんでフィールドワークの準備をしている姿を見ると、開智小学校に入学して良かったなと感じます。

大人が手を差し伸べて「こうなさい」と押し付けることなく、子どもたち全員に役割を与え、自分の頭で考える機会がたくさんあることで主体性が育まれていると感じます。



好奇心や探究心を育む実体験
「体験」から学ぶ

子どもたちは、「体験」から多くのことを学びます。
様々な「体験」を通して、子どもたちの好奇心や探究心を育みます。

開智ではたくさんの「体験」を用意しています。子どもたちは「体験」を通して、好奇心や探究心を育み、主体的に学ぶ基礎を作ります。学年ごとに設定された「体験テーマ」のもと、毎年行われるフィールドワーク（宿泊学習）では、海や山などに出かけ、探究学習の手法を学びます。



学年テーマ

学年ごとに「体験テーマ」を設定し、一年を通して総合的な学習を行います。自然体験・農業体験・社会体験など、様々な「体験」が、子どもたちを大きく成長させます。また、毎年1回、様々な場所に足を運び、探究フィールドワークの旅に出かけます。

学年	テーマ	内容
1年生 プライマリー (小学校1年生～4年生)	生活	● オータムスクール ● リーダースシアター(朗読劇)
	あそび	● ネイチャーゲーム ● ウィンタースクール
	食の探究	● お米作り ● 野外活動(食の探究)
	ものづくり	● 山のフィールドワーク ● 木材でのものづくり
5年生 セカンダリー (小学校5年生～中学2年生)	マネージメント	● 新聞づくり ● 磯のフィールドワーク
	交流	● 地域探究フィールドワーク
	学校づくり	● 森のフィールドワーク ● 学校づくりプロジェクト
7年生	探究ツーリスト	● 探究のための旅を企画 ● 自ら設計するフィールドワーク
	ターシャリー (中学3年生～高校3年生)	中学3年生 関西フィールドワーク ● 知識の再編成 高校1年生 首都圏フィールドワーク ● 視野を広げる 高校2年生 英国フィールドワーク ● 海外寄宿舎宿泊 ● 英語ディスカッション 高校3年生 進学準備 ● 志望校対策講座

1年生 オータムスクール | 栃木県日光市 |



1年生から1泊2日の宿泊学習に出かけ、日光の自然を舞台に、森のフィールドワークを行います。初めての共同生活で、同学年の絆を深めます。

2年生 ウィンタースクール | 新潟県魚沼市 |



2年生の学年探究テーマは「あそび」ウィンタースクールでは豪雪地帯の新潟県に出かけ、現地の小学生と「あそび」を通して交流します。

3年生 食の探究/お米づくり | 栃木県日光市 |



野外活動に出かけ、生きた魚をさばいたり、出汁をとったりと、「食」をテーマに野外活動を行います。また、バケツ稲を使って、種の発芽から収穫まで、米作りを体験し、「食」への感謝の気持を育てます。

4年生 ものづくりフィールドワーク | 茨城県笠間市 |



4学年のテーマは「ものづくり」。茨城県の伝統工芸として伝わる「笠間焼」を体験します。職人さんの話を伺いながら、制作活動を通して、ものづくりを探究します。

5年生 磯のフィールドワーク | 千葉県南房総市 |



千葉県に「磯のフィールドワーク」に出かけます。大学の研究室にも協力いただき、海の生物について学びます。

6年生 地域探究フィールドワーク | 富山県 |



富山県庁の方々にご協力いただき、「産業」「防災」「教育」など、様々な観点から街づくりについての探究活動を行います。

7年生 森の探究フィールドワーク | 長野県上田市 |



長野県で、森の探究フィールドワークを行います。自らの疑問から、仮説・検証・プレゼンテーションを通して探究力を高めます。

8年生 探究フィールドワーク



8年生のフィールドワークは、開智での探究学習の集大成です。各自のテーマにもとづき、訪問先を自分で決め、学びを深めます。

子どもたちの手で創りあげる
自ら創る「行事」

運動会や開智発表会など、 様々な行事を「児童生徒主体で行う」のも開智の特長です。

先生がすべてを準備するのではなく、自分たち自身で行事を創り上げることを通して、主体性やリーダーシップを育てます。また、これらの行事もすべて異学年齢学級（Team）をベースに行い、タテヨコの人間関係の中で、他者を思いやる心を育てます。



開智発表会

一年間の学びの総決算が2月に行われる開智発表会です。教科の学習や学年ごとのテーマ学習の成果を発表したり、Teamで取り組んだ表現劇の発表など、盛りだくさんの2日間です。



1年間の開智の学びのまとめとなるのが「開智発表会」です。表現（演劇）や日々の各教科の学びの成果を展示します。表現は、脚本書きや舞台づくり、衣装づくりまで子どもたちが主体的に関わります。各Teamで練習を積み重ね、人間関係や表現力を培います。

異学年齢のTeamで一つの表現劇を演じます。セカンダリーでは、脚本作りから演出プランまで、すべてを児童生徒が主体的に創り上げていく中で、コミュニケーション力や表現力を身につけていきます。

プライマリー					セカンダリー	
表現劇					表現劇	探究プレゼンテーション
午前	1～4年生までの異学年齢でTeam一つの劇を演じます。				5～8年生までの異学年齢Teamで一つの劇を演じます。	セカンダリー児童生徒が一年間取り組んだ「探究学習」の成果をプレゼンテーションします。
	学年ごとの発表					
午後	1年	2年	3年	4年	有志発表 有志メンバーによるバンド演奏やダンスなどを披露します。	
	リーダーシアター（朗読劇）	「あそび」まつり	「食の探究」発表	「ものづくり」ワークショップ		

総合部の集大成となる「探究プレゼンテーション」。自ら設定した「探究テーマ」のもと、フィールドワークなどで学んだ成果をパワーポイントを使ってプレゼンテーションします。

運動会

1～8年生までが一つのTeamとなり、Team対抗で熱い戦いを繰り広げます。競技だけではなく、準備、審判、放送など運動会を盛り上げるための仕事もすべて子どもたちが行います。

R6プログラム（例）

学年	内容
開会式	
セカンダリー全員	大縄跳び
プライマリー全員	徒競走
セカンダリー全員	全員リレー
プライマリー全員	玉入れ
セカンダリー全員	棒引き
1・2年	ディズニー体操
3・4年	MJダンス
セカンダリー全員	ダンス
休憩	
全員	大玉送り
プライマリー全員	綱引き
セカンダリー全員	走り綱引き
プライマリー選抜	選抜リレー
セカンダリー選抜	選抜リレー
閉会式	



プライマリーからセカンダリーまで8学年混合のTeam対抗戦で競います。プログラム・種目・準備など、何から何まで、実行委員会を中心に児童生徒自らの手で創り上げる運動会が開智の伝統です。恒例のセカンダリーTeam対抗ダンスは、チームカラーも様々で迫力満点です。

日々の生活

思いっきり遊び、じっくり学ぶ

朝、開智の校庭には多くの子どもたちの元気な声が響き渡っています。そして読書の時間になると一転して、校舎に静寂が訪れます。子どもたちはチャイムのない中で、自ら考え、自ら行動し、仲間とともに学校生活を創り上げていきます。

「限られたグラウンドをどのように使うのか」、「雨の日の休み時間をどのように過ごすのか」、共同生活を送っていくうえで、様々な課題が出てきます。その一つ一つの生活上の課題を、委員会を中心にして、自分たちで解決していくのが開智のスタイルです。

「思いっきり遊び、じっくり学ぶ」

このスローガンのもと、開智の子どもたちは、授業中でも休み時間でも、学校生活の様々な場面で課題を見つけ、自分たちで考え、議論し合い、日々の生活をより良いものへと創り上げています。

放課後を安心して過ごせるように

共働き世帯の増加に伴い、放課後の学童やアフタースクールの充実に対するニーズが高まっています。開智では、通常の学童保育に加えて、ピアノや書道など、様々な講座を用意して、子どもたちが安心して充実した放課後を過ごせる体制を整えています。

どのプログラムもすべて学校施設内で行われますので、保護者の皆様にとっても安心して預けていただける環境です。



保護者の声

息子に学校が楽しいか尋ねた時に、「楽しい!」と嬉しそうに答えてくれること、そこに開智小学校の魅力が詰まっていると感じています。毎日楽しく過ごす工夫や仕掛けがたくさん詰まっている学校だと感じています。

様々なタイプの子どもが一緒に学び、元気いっぱいな子、物静かな子、どんな子でも楽しそうに毎日過ごせているのが開智小学校の1番の魅力だと感じています。

アフタースクールの体制やプログラムが充実しており、共働き家庭でも安心して通わせることができるのが魅力です。

開智で過ごす、充実した毎日

1日の生活

「思いっきり遊び、じっくり学ぶ」一日。



日常の学校生活は異学年齢のチームで過ごし、教科の授業は同学年のクラスで行います。教科ごとに教室を移動し、教科ごとに専門の教員が授業を行います。



登校

「おはようございます！」玄関では代表委員が朝の挨拶運動を行っています。元気な挨拶で一日が始まります。



朝の読書・朝の会

開智にはチャイムはありません。読書の時間になると子どもたちは自然に思い思いの本を読み始めます。朝の読書で心を落ち着かせ、1日の勉強に向けて集中力を高めます。



各教科の授業

各Teamで朝の会を終えると、子どもたちは各学年・各教科ごとの授業に向かいます。教科の授業はTeamを離れ、それぞれの学年ごとに、少人数クラスで行います。



ランチタイム

再びTeamに戻って昼食です。ご家庭の手作りのお弁当や食堂で作った給食を仲間と一緒に食べます。※給食は「希望制」となっています。1日単位で申し込むことが可能です。



昼の学習

昼休みに思い切り遊んだ後、「昼の学習」を行います。主に算数の計算問題などを中心に、日々の学習をより確かなものにすると同時に、集中力を高めます。



午後の授業

異学年齢のTeamで体育や道徳を行い、健やかな体と豊かな心を育みます。またパーソナルの学習では担任の支援のもと、目標設定やそれに向けて、「自ら学ぶ力」を鍛えます。



掃除・帰りの会

掃除も異学年齢のTeam毎に行います。上級生が下級生をリードする日常の学校生活も重要な学びの場です。



下校

登下校時に入口にあるセンサーにセキュリティーカードをかざすことで、保護者の方に登校時間・下校時間をお知らせします。(希望制)



アフタースクール

放課後は、学童保育(最大18:30まで)と様々なプログラム(習い事)を複合したアフタースクールを校舎内にて実施します。(P25参照)

3年生時間割例

※プライマリーは隔週で土曜授業を行います。

	月	火	水	木	金	土
1	社会	理科	英語	算数	Art	体育
2	算数	算数	理科	社会/体育	算数	社会
3	国語	国語	Music	国語	体育	Team総合
4	体育	英語	国語	英語	国語	Team総合
5	パーソナル	Team探究	算数	総合	道徳	
6	Art	パーソナル	委員会(隔週)	総合	Music	

※今後カリキュラム改定等により変更する場合があります。

6年生時間割例

※セカンダリーは原則、毎週土曜授業です。

	月	火	水	木	金	土
1	英語	英語	理科2	英語	幾何	社会
2	図工	国語	英語	代数	英語	国語
3	体育	理科1	代数	幾何	社会	道徳
4	音楽	図工/音楽	国語	理科2	代数	探究/表現
5	国語	家庭科	Team	体育	国語	
6	社会	代数	学年	国語	家庭科	
7	代数	社会/体育		英語	理科1	

青文字は異学年齢のTeamで行われる授業です。

子ども自身が成長を実感する

年間行事

子どもたちが自らの手で創りあげる
様々な行事

開智では、1年を通して様々な行事・イベントがあります。いずれも共通するのは、「子どもたちの自らの手で創り上げる」ということです。子どもたち自身が企画し、準備し、実行することで、責任感や協調性、リーダーシップが育まれます。

1学期

4

APRIL

▶入学式(1年)



最上級生となった4年生が新1年生の手をつないで開智の仲間としてあたたかく迎え入れます。1年生全員のスピーチで、開智での12年間が始まります。

▶進級式(5年)

5

MAY

▶エクスカージョン(自然)

春のエクスカージョン(遠足)では、『自然』をテーマにし、Team毎に子どもたち自身で場所や活動内容の企画を立て、自然を発見し、感じる旅に出かけます。

6

JUNE

▶球技大会



異学年齢のチーム対抗で優勝を競います。上級生を中心に練習を重ねる中で、上級生への憧れ、下級生への思いやりを育み、チームの絆がつけられていきます。

▶フィールドワーク(5年・磯の探究)

開智では、学年ごとに「山」「海」「ものづくり」「街づくり」など、様々なテーマを設定し、「探究」のフィールドワークに出かけます。宿泊を伴う集団活動を通して、人間関係を学びながら、場所を変えて行う様々な課外活動の中で学ぶ喜びを体験します。

7

JULY

▶プール開き

全天候型の屋内温水プールを利用して、プールの授業を行います。

▶期末テスト

3年時より、学期末に定期考査を行い、学習内容の定着を図ります。セカンダリーでは各学期ごとに中間・期末テストを実施します。

▶フィールドワーク(7年・森の探究)

8

AUGUST

▶夏期講習

2学期

9

SEPTEMBER

▶探究プレゼンテーション

プライマリーの児童が夏休みの間に取り組んだ探究学習の成果をプレゼンテーションします。子どもらしい視点で様々な探究テーマを設定し、お互いの発表を聞くことで深い学びに繋がります。

▶フィールドワーク(6年・地域探究)

10

OCTOBER

- ▶フィールドワーク(4年・ものづくり)
- ▶運動会
- ▶オータムスクール(1年)



1年生から1泊2日の宿泊学習に出かけます。親と離れ、自分で自分のことをする練習をします。また、大自然の中で仲間との心のつながりを深めあいます。

▶野外活動(3年)



キャンプや自炊体験など、同学年の友だちと協力しながら一つのことを成し遂げる体験を通して、協調性や責任感を育みます。

11

NOVEMBER

▶エクスカージョン(芸術・科学)

秋のエクスカージョンは「芸術・科学」をテーマとし、美術館や博物館、学習施設などに出かけます。

- ▶フィールドワーク(8年・探究ツリスト)
- ▶スピーチコンテスト

12

DECEMBER

- ▶Spelling-Bee
- ▶期末テスト

3学期

1

JANUARY

▶ウィンタースクール(2年)

2年生は、真冬の雪国に出かけ、2泊3日の宿泊学習を行います。雪国での生活を肌で体験し、自らで企画した雪遊びを通して、仲間との絆を深めます。

2

FEBRUARY

▶開智発表会

異学年齢Teamによる表現劇や、セカンダリー児童生徒による探究プレゼンテーション、学年ごとの探究テーマ発表など、1年間の学習の集大成となるのが「開智発表会」です。

3

MARCH

- ▶学年末テスト
- ▶4年生を送る会(プライマリー)
- ▶8年生終了式(セカンダリー)



7年生が企画し、総合部セカンダリーの総力をあけて8年生を送る式を創ります。

放課後も充実した時間を
アフタースクール

多様な体験や習い事、
友達と自由に遊ぶ時間を、安心安全な校舎内で。

放課後の校舎を活用して、
自由で主体的な活動や、好きや得意を伸ばす様々な体験活動を行っています。
ご家庭のニーズにあわせて、安心してご利用いただける環境を整えています。



特徴・その **1**

安心安全の校舎内で友達との
楽しい時間(専属スタッフ配置)

活動場所が校舎内のため、移動の手間なく安全な環境でお友達と遊んで過ごすことができます。また異学年齢の交流が可能です。

特徴・その **2**

得意を見つける好きを伸ばす
多彩なプログラム

ピアノ・そろばん・英語・書道・サッカーなどの習い事や、豊富な種類の体験活動に参加することができます。

特徴・その **3**

開智小学校の教育方針に
合わせた内容の運営

学校方針を理解した専属スタッフと、教職員間で連携をとり、生活習慣も含めた幅広い活動をサポートしていきます。

アフタースクールの概要

開校日

- 開校時間：平日下校時から18:30まで
- ※ 学校休校日・長期休暇中につきましても平日は原則として8:20から18:30まで開校致します。
- ※ 閉校日：土日・祝日、お盆・年末年始の一部

対象

- 開智小学校(総合部) 全学年(1~8年生)
- ※保護者の就労等の条件はありません。

長期休暇時のご利用について

春・夏・冬の長期休業中や学校休校日も、毎日アフタースクールを実施します。(平日のみ。ただしお盆と年末年始を除く)



夏休みのアフタースクールでは、お祭り、水遊びなどを行います。

ご利用方法

自由遊び、子ども主体の活動、宿題、おやつ等の環境が整った「アフタースクール」をベースに、「プログラム」を組み合わせご利用になれます。

アフタースクール利用

レギュラー利用

毎週固定の曜日(週1~週5日)でのご利用
※月毎に利用日変更可

スポット利用

曜日を固定せずに1日単位でのご利用
※前日18時までの申込み

+

プログラム受講

定期プログラム

毎週決まった曜日に行なわれる習い事(隔週の実施もあり)

スペシャルプログラム

特別講座などの体験的活動

アフタースクールでの過ごし方

15:00~

順次入室、入室手続き

▶学校の下校事項に合わせて入室します。



15:10~

宿題、おやつ

▶主体的に取り組めるようにサポートします。



15:15~

定期プログラム(選択者のみ)

▶各曜日で3~4種類のプログラムを実施。



16:00~

自由遊び・スペシャルプログラム

▶校舎内のグラウンドやプレイルームを使って遊びます。季節のイベントも不定期開催。



17:30~

順次帰宅

(保護者にメールが届きます)

最終帰宅時刻18:30までは定期的にバスが運行しています。



一週間の利用例

- 月曜日 レギュラー利用(プログラムの受講はなし)
- 火曜日 レギュラー利用+サッカープログラム
- 水曜日 【利用なし】授業終了後帰宅
- 木曜日 スポット利用(普段は利用のない曜日でこの日のみの利用)
- 金曜日 レギュラー利用+ピアノプログラム

各種プログラムのご案内

※2024年度の内容



心と体を鍛えて強く優しい心へ

空手



即興演劇で創造力を育む

インプロ



「おもてなしの心」を学ぶ

茶道



多様な運動で身体感覚、体力を高めます

総合スポーツ



「聞く・話す・読む・書く」の力を伸ばす

英語(Lepton・英会話)



友達とサッカーに打ち込もう

サッカー



バランスと柔軟性を高める

チアリーディング



暗算力と右脳を鍛える

そろばん



美しい文字は一生の宝物

書道



レベルに合わせた個別指導

ピアノ・バイオリン



不定期開催の多様な体験教室

スペシャルプログラム

校舎を子どもたちが彩る
制服・施設紹介

子どもたちが考え、行動することで、
自ら学ぶ環境を創り上げています。

東岩槻の広大な敷地の中に、小学校から高校まで、様々な学びを行うための施設を整えています。この施設をどのように活用していくかも、子どもたちによる「学校創り」の一環です。

「ポロシャツの夏服がほしい！」
という子どもたちの声を受けて、
児童生徒会の提案で、ポロシャツ
の制服が導入されました。



プライマリー冬服/夏服

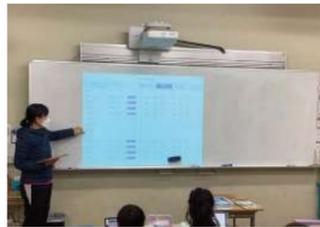
セカンダリー冬服/夏服

セカンダリーポロシャツ



教室掲示版・ロッカー扉

セカンダリーの図工の授業で、学校の施設備品を作りました。壊れていたロッカーの扉を、自らの手で作り上げていくことで、校舎への愛着を持ち、大切に使うことができるようになります。



校庭(プライマリー)



校庭(セカンダリー)



ICT環境

全教室にホワイトボードとプロジェクターを完備しています。児童生徒・教職員全員が、1人1台のiPadを使用し、ICTを効果的に活用します。



開智プラザホール



体育館(総合ホール)



プレイルーム



職員室



図書コーナー



屋内プール

しっかり学び、未来を切り開く
進学実績

子どもたちが考え、行動することで、
自ら学ぶ環境を創り上げています。

開智に入学後、プライマリー(小1~4)、セカンダリー(小5~中2)へと進級し、原則として全員が中学3年時に、「開智学園中高一貫部」に合流します。
(※高校から入学した「高等部」とは別カリキュラムとなります)

開智学園総合部生は、開智学園中高一貫部に進学します

中高一貫部に進学後も、総合部で身につけた、「自ら学ぶ探究心」や「主体性・リーダーシップ」を発揮し、それぞれの将来の夢や目標に向けて、その先のステップへと羽ばたいていきます。

プライマリー				セカンダリー				→中高一貫部に合流			
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
								中学1年	中学2年		
開智学園中高一貫部											

※セカンダリー修了時に(中学3年進級時)中高一貫部と合流します。

開智学園総合部 大学合格主要実績

開智学園総合部(小学校)に入学し、一貫部に進学した生徒の合格実績です。	令和6年 (卒業生66名)	令和5年 (卒業生59名)	令和4年 (卒業生84名)
国公立大学			
東京大	—	1	3
東京工業大	1	—	—
一橋大	—	1	1
お茶の水女子大	1	—	2
北海道大	—	—	1
東北大	1	1	—
東京芸大	1	1	—
弘前大	—	—	—
秋田大	1	—	—
新潟大	—	—	1
筑波大	2	3	—
茨城大	—	—	3
群馬大	1	1	1
横浜国立大	1	—	—
電気通信大	1	—	—
防衛大	—	1	—
防衛医大	—	1	—
国公立大学 医学部			
東京大(理科Ⅲ類)	—	—	1
北海道大	—	—	1
東北大	1	—	—
筑波大	1	—	—
群馬大	1	1	—
秋田大	1	—	—
弘前大	—	1	—
防衛医大	—	1	—
旭川医科大学	—	—	1
新潟大	—	—	1
私立大学 医学部			
帝京大	4	—	—
東京女子医大	2	—	—
順天堂大	1	1	—
獨協医大	1	1	1
杏林大	1	—	—
東邦大	—	1	—
東京医大	—	1	—
埼玉医大	—	1	1
日本大	—	1	1
その他私大医学部	1	—	2
私立大学			
早稲田大学	5	7	7
慶應義塾大学	7	2	6
上智大学	8	2	8
東京理科大	9	12	13
明治大学	6	14	16
青山学院大学	11	8	4
立教大学	7	12	3
中央大学	7	10	9
法政大学	9	8	12
学習院大学	2	5	2
国際基督教大	—	—	1
津田塾大	1	2	—
東京女子大	1	—	1
東京農大	1	—	6
関西学院大	2	—	—
関西大	1	—	—
同志社大	—	1	1
立命館大	—	3	—
近畿大	3	—	—
武蔵野美大	3	—	1

開智学園中高一貫部 大学合格主要実績

総合部出身者が中3進級時に合流する「中高一貫部」全体の合格実績です。	令和6年 (卒業生306名)	令和5年 (卒業生313名)	令和4年 (卒業生348名)
国公立大学			
東京大	7	7	6
京大	—	—	1
一橋大	—	2	1
東京工業大	2	5	10
北海道大	1	7	3
東北大	5	11	2
大阪大	1	2	1
九州大	2	2	—
筑波大	8	7	8
群馬大	1	2	3
埼玉大	4	3	3
千葉大	5	5	8
東京海洋大	—	—	2
お茶の水女子大	4	1	6
東京外国語大	—	—	3
東京学芸大	—	1	1
東京芸大	3	2	—
東京農工大	3	2	2
横浜国立大	3	4	2
その他国公立大	26	12	18
国公立大学 医学部			
東京大学(理科Ⅲ類)	1	—	1
東北大	—	1	—
弘前大	—	1	—
秋田大	2	1	1
筑波大	2	—	—
群馬大	1	1	3
新潟大	1	1	—
防衛医科大学校	2	3	1
その他国立大学医学部	2	—	3
私立大学 医学部			
慶応大	1	—	1
東京慈恵会医大	1	1	1
日本医大	1	1	—
順天堂大	2	2	1
東京医大	—	1	1
東京女子医大	3	2	2
獨協医大	8	3	3
帝京大	8	—	—
埼玉医大	3	5	2
日本大	3	1	1
杏林大	3	—	—
北里大	1	1	1
昭和医大	—	1	—
東邦大	—	1	—
聖マリアンナ医大	—	1	1
その他私大	7	5	5
私立大学			
早稲田大学	76	56	54
慶應義塾大学	39	33	36
上智大学	33	23	31
東京理科大	91	98	105
明治大学	75	79	89
青山学院大学	30	32	23
立教大学	60	52	39
中央大学	43	41	45
法政大学	63	51	56
学習院大学	22	16	18

開智学園総合部で過ごした12年間で、卒業生に振り返ってもらいました。

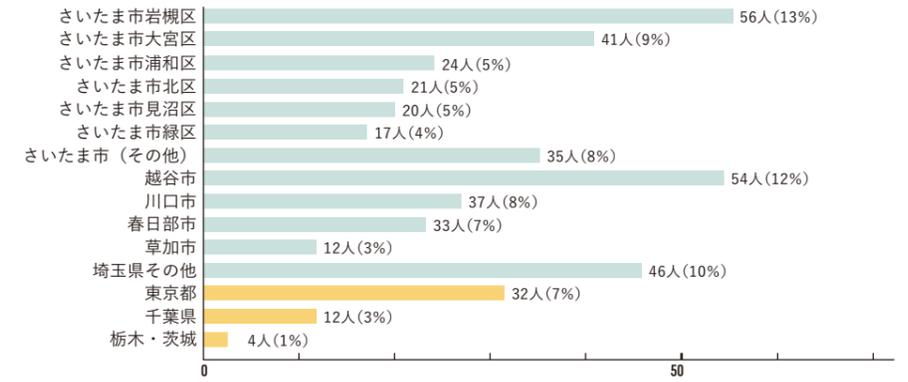
2004年の開校以来、多くの卒業生が開智学園総合部を巣立っていきました。現在、大学や社会人として活躍するOBOGに、現在の様子や開智で過ごした12年間のどのように今に活かされているかを聞きました。



保護者アンケート

保護者の皆さまからいただいたアンケート結果をご紹介します。

〈在校生分布〉



異学年学級で培った、挑戦する力と支え合う心

明神 翔大

卒業年度(一貫部):2020年度
大学名:筑波大学理工学群

他の小学校もいくつか受けた上で、「どこか行きたいと思ったところある?」と親に聞かれ、年の違う子と同じクラスになれるのが楽しそうだったので、開智に決めました。小学生の頃は比較的静かで、積極的に前に出るタイプではありませんでしたが、普段から先輩後輩と関わる環境だったおかげで、人との上手な接し方が自然と身についたと思います。

一番の思い出は8年の運動会です。8つもの学年をまとめ、引っ張っていくのは本当に大変でした。セカンダリー進級後は、プライマリーの子たちと接することがないため、応援練習などを通じていかに低学年の子達ともいい空気を作っていくかを一生懸命考えた記憶があります。

総合部での8年を振り返ってみると、子どもたちの好奇心や興味を尊重し、どんどん好きなことに挑戦していける環境が整っていたなと思います。パーソナルや探究での活動を通して、自分が興味を持ったことがあればまず調べてみるという姿勢が自然に身についたと思います。

現在は自転車の操縦や地震などの振動を抑える「制御系」の研究をしています。将来の夢は具体的には定まっていますが、宇宙関連に興味があるので、宇宙産業に関われるような職に就きたいなと思っています。

〈入学をお考えの方へのメッセージ〉

普通の小学校ではなかなか得られないような経験や関係を築けるのが、開智の異学年学級の良さだと感じています。勉強面はもちろんのこと、1人の人間としても大きく成長していける学校です。



好奇心から生まれた挑戦が導く、私の未来への旅

小宮 雪鹿

卒業年度(一貫部):2023年度
大学名:お茶の水女子大学 文教育学部

私は、3つ上の姉が総合部に通っていたので、小学生になったら自分も同じところに行くのだと自然に思っていました。小さい時から好奇心旺盛で目立ちがりの性格だったので、Team代表や生徒会長など、いろんなことにチャレンジしました。総合部は、私の「いろいろやってみたい」という気持ちをつぶすことなく、いっぱい伸ばしてもらったと思っています。

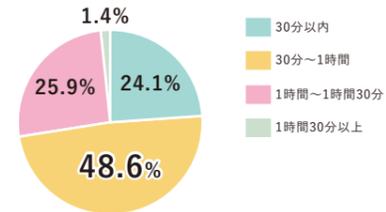
総合部特有の自由な環境のおかげで「自分の興味を追求し、行動に移す力」がついたと思います。私は中学生の時に、「子どもの貧困」に関心を持ち、何度も海外ボランティアや外部のエッセイコンテストなどにも積極的に参加し、将来は子どもと関わりながら国際的に活躍できる人になりたいという夢もできました。

一貫部に進級後、受験に向けてのサポートも充実していました。高2の後半から始まる特別講座や定期的な模試の実施、担任の先生との面談などを通して、塾に頼ることなく受験をやり切ることができました。

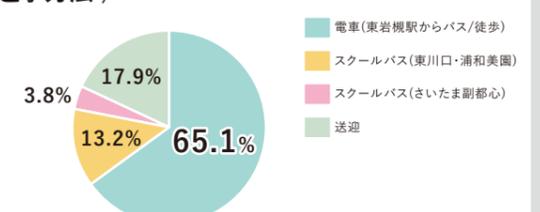
〈入学をお考えの方へのメッセージ〉

総合部は、「やってみたい!」「気になる!」という気持ちを最大限に引き出してくれます。中学受験・高校受験もなく、伸び伸びとたくさんの好きなことに挑戦しながら、学力も伸ばしていける学校だと思います。

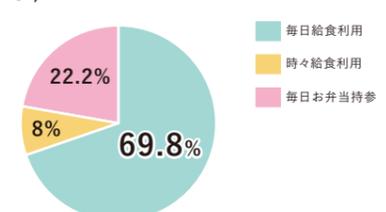
〈通学時間〉



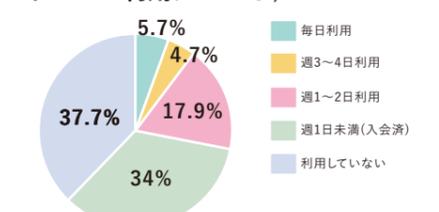
〈主な通学方法〉



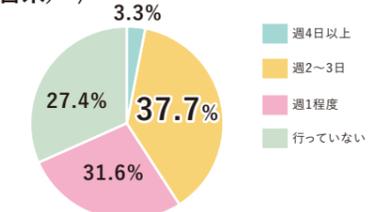
〈昼食について〉



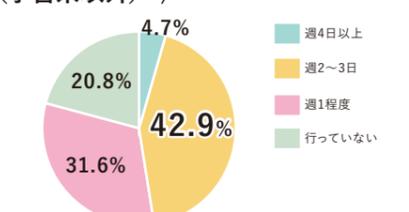
〈アフタースクールの利用について〉



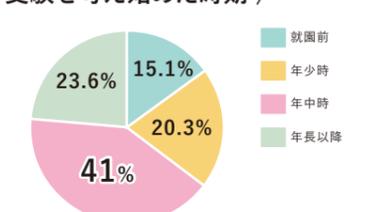
〈習い事(学習系)〉



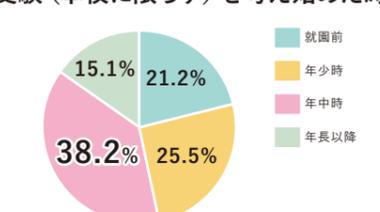
〈習い事(学習系以外)〉



〈開智小への受験を考え始めた時期〉



〈小学校受験(本校に限らず)を考え始めた時期〉



学びの特徴

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

すべての学習のベースは、「なんだろう」という好奇心や「知りたい」「学びたい」という意欲です。開智では様々な体験学習や行事を通して、子どもたちの主体性を育みます。

自ら学ぶ、共に学ぶ

将来、国際社会に貢献するリーダーを育成するために、一方向型の講義型授業だけではなく、仲間と共に「学び合う」授業を通して、協調性やコミュニケーション能力を高めます。また開校当初から取り組んでいる「探究」では、各自が自身の興味関心をもとに「探究テーマ」を設定し、「疑問→仮説→検証→振り返り」というサイクルを通して、「自ら学ぶ力」を育みます。

脳の機能を高める

主体的・対話的で深い学びを実現するために必須となるのが、基礎的な学力です。読み書き計算の学習を習慣化し、徹底して反復することで、将来の学びの基礎を作ります。

保護者の声

子供達がのびのびと楽しみながらたくさんの方の事を学んでいる姿が親としてとても嬉しいです。

異学年の環境で、教えたり教えてもらったりを通して、探究心やコミュニケーション能力など非認知型能力が高められる学校です。

授業や探究プレゼンテーションなど、様々な場面で学びをアウトプットする機会が多く、表現力や度胸が身に付いたと感じます。

先生方は正解にとらわれず、自由な発想や過程を大切にされる授業をされており、日々の子どもとの会話の中で創造力と発信力が成長していると感じております。

